

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12157

研究課題名(和文) 実証的循環型コレクションモデルの創出による研究図書館の危機打開

研究課題名(英文) Quantitative Analysis Based Evaluation Model for Research Library Collections

研究代表者

北村 由美 (Kitamura, Yumi)

京都大学・附属図書館・准教授

研究者番号：70335214

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、東南アジア地域研究を対象とし、1950年代から2015年に刊行された主要学術雑誌の引用分析の国際比較と、東南アジアコレクションの蔵書分析を通して、実証的循環型コレクションモデルを検討した。分析対象が膨大であるため、特にベトナムに関係した論文の引用分析と、ベトナム戦争に関係した書誌目録のAPI検索を行った。その結果、日本語論文、英語論文ともに引用文献中、50%以上が図書資料であることや、引用までの期間が長いことなどが分かった。以上のことから、東南アジア研究に関しては、図書資料の重要性と、引用への時差を考慮した長期的視野に基づいたコレクション評価手法を確立する必要性が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to design the collection evaluation model for research libraries based on quantitative analysis such as the holdings of the cited works in scholarly papers in special collections. Taking Southeast Asian Studies, more specifically the study of Vietnam, as an example, this study examined the patterns of citation in both English and Japanese academic journals and conducted the evaluation of holdings of related materials in special libraries by using API search scheme. The findings show the tendency of citing monographs over other research materials (over 50 percent in both English and Japanese journals) and the long duration of time for the works to be cited (average of 17.7 years in English papers and 10 years in Japanese papers). The average percentage of holdings of cited materials in authors' institution is 67 percent. From these findings, the importance of long term evaluation scheme for research libraries is recommended.

研究分野：図書館情報学・東南アジア研究

キーワード：東南アジア研究 ビブリオメトリックス API コレクション評価

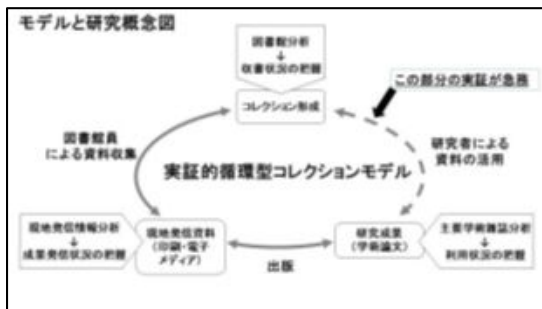
1. 研究開始当初の背景

世界有数の東南アジアコレクションの閉鎖や縮小が相次ぐ中で、研究図書館の意義を再考する必要を感じ、本研究の着想に至った。例えば、2011年、オランダの王立熱帯研究所図書館コレクションが売却された。2014年にもオランダの王立言語地理民族学学会の図書館が閉鎖されライデン大学に移管された。これらのコレクションは、前者が1864年、後者が1851年に設立され、いずれも150年以上におよぶ世界的な資料拠点であった。また、冷戦期に地域研究コレクションの拠点を形成したアメリカの大学では、冷戦以降、予算が減少し、継続的なコレクション保持の困難に面している。

このような研究図書館の危機の一因は、蔵書と研究成果の関係性が明確でないことである。このような現状を打開し、グローバル化時代の社会的要請に研究コレクションが応えるためには、歴史的経緯を踏まえた上で、資料と研究成果の相関関係の検証し、長期的スパンに亘って国際比較を行うことで、研究コレクションと研究成果の関係性を実証的に把握するメカニズムを構築することが不可欠であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東南アジア地域研究を分析の対象とし、1950年代から現在までの東南アジア研究の時勢を代表する研究コレクションと学術雑誌の国際比較分析を行い、実証的循環型コレクションモデルを検討することである。



3. 研究の方法

本研究では、東南アジア地域研究の研究成果と図書館の蔵書との関係を明らかにするため、ビブリオメトリックスとAPI検索の手法を活用する。

本研究では、分析対象が膨大であるため、東南アジア研究における大きな転換点となったベトナム戦争の重要性を鑑み、特にベトナムに関係した論文の引用分析と、ベトナム戦争に関係した書誌目録のAPI検索を行う。

4. 研究成果

以下に本研究の過程で分かった、いくつかの発見を挙げる。ただし、対象データが膨大であるため、今後もデータの精査をすすめていく予定である。

<引用分析>

英文論文に関しては、引用文献データベース、Web of Scienceに登録されている東南アジア関係の学術雑誌3誌(1956-2015刊行分、ただし雑誌によって差があり)からベトナムに関係する論文539タイトルを抽出し、うち2回以上引用されている257タイトルについて引用パターンの分析を行った。その結果、引用文献の約59%が図書資料で、出版後、引用されるまでの期間の平均が17.7年と比較的長いことが分かった。

日本語論文に関しては、学術雑誌『東南アジア：歴史と文化』(1975-2015刊行分)と『東南アジア研究』(1963-2015刊行分)に収録されているベトナムに関係する論文をそれぞれ分析の対象とした。『東南アジア：歴史と文化』に収録されたベトナムに関する論文・研究ノート1156タイトルについて、引用パターンの分析を行った。その結果、英語論文の場合同様、図書資料の引用率が高く、56.5%であった。一方、引用までのタイムラグは平均約10年と、英語論文と比較すると短かった。また引用文献の言語分布では、日本語とベトナム語がどちらも約28%、英語が約21%となっており、日本独自の東南アジア研究の発展をたどってきたことが分かる。『東南アジア研究』は、現在分析をすすめている。

<API検索>

で抽出されたタイトルで引用されている文献のうち、著者の所属が判明した図書582点について、著者の所属機関における所蔵を検索した結果、平均すると67%が所蔵されているが、図書館間ではらつきがあることが分かった。

コーネル大学が編纂した“Vietnam War bibliography : selected

from Cornell University 's Echols Collection” (1983)に収録されている約3000タイトルのAPI検索をOCLCとCiNiiにて行った。その結果、アメリカの図書館では、コーネル大学において約2300件の登録が確認できるが、コーネル大学につぐ規模の東南アジアコレクションであるアメリカ議会図書館では、約800点しか確認できなかった。日本の場合は、最も多い京都大学東南アジア地域研究研究所図書室でも約300点である。

これらの調査結果より、東南アジア研究に関しては、図書資料の重要性と、引用への時差を考慮した長期的視野に基づいたコレク

ション評価の必要性が明らかになった。今後は、これらのデータをさらに精査して、本科研の最終目的である実証的循環型コレクションを提示したい。

また、上記を含めた本研究のこれまでの成果に関しては、2018年3月に開催されたアメリカアジア学会の年次集会にて、パネル発表を行い、参加者より、コレクション評価における実証的研究の重要性について啓発を受けたという意見をはじめ、高い評価を得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

Kitamura, Yumi. Inclusive Planning Process for Space and Services at Kyoto University. *Libraries: Enabling Progress, International Library Forum*. 査読無, 1, 2017, 253-259.

佐藤翔, 安藤大輝, 川瀬直人, 北島顕正, 塩崎亮, 那珂元, 原田隆史, ディスカバリサービスにおける絞り込みプロセス: 国立国会図書館サーチのアクセスログ分析, *図書館界*, 査読有, 67(4), 2015, 244-261.

Sato, Sho, Minako Nishiura, Yuko Nagai, Hiroshi Itsumura. Usage Log Analysis of Articles in Five Japanese Institutional Repositories: the Relationships between Users, Access Paths, and Accessed Articles. *同志社図書館情報学*, 査読無, 25, 2015, 20-37.

佐藤翔, 吉田光男, オルトメトリクスは論文評価を変えるか: ソーシャルメディアで算出する新たな指標, *化学*, 査読無, 71(2), 2016, 23-28.

佐藤翔, 上田真緒, 木原絢, 成宮詩織, 林さやか, 森田眞実, 日本の学協会誌掲載論文のオンライン入手環境, *情報管理*, 査読有, 58(12), 2016, 908-918.

佐藤翔, 査読の抱える問題とその対応策, *情報の科学と技術*, 査読無, 66(3), 2016, 115-121.

佐藤翔, 「TSUTAYA 図書館」から考える教育機関としての図書館, *Musa: 博物館学芸員課程年報*, 査読無, 30, 2016, 21-30.

村上りえ, 佐藤翔, 性格特性が影響を与える情報発信行動: 自己効力感と発信量を手がかりに, *同志社図書館情報学*, 査読無, 26, 2016, 13-25.

Shoko Nakahata, Emiko Sakamoto, Akiho Oda,

Noriko Kobata and Sho Sato. Effects of color of book cover and typeface of title and author name on gaze duration and choice behavior for

books: Evidence from an eye-tracking experiment. *Proceedings of the Annual Meeting of the Association for Information Science and Technology*. 査読有, 53, 2016, 1-4.

佐藤翔, 吉田光男, 日本の学協会誌掲載論文のオルトメトリクス付与状況, *情報知識学会誌*, 査読有, 27, 2017, 23-42.

佐藤翔, 図書館の「価値」を考える, *Musa: 博物館学芸員課程年報 (追手門学院大学)*, 査読無, 31, 2017, 11-17.

佐藤翔, クラスタ分析による図書館利用者・非利用者のグループ化, *同志社図書館情報学*, 査読無, 27, 2017, 59-94.

佐藤翔, 人は図書館と本棚をどう見ているのか?, *Musa: 博物館学芸員課程年報 (追手門学院大学)*, 査読無, 32, 2018, 47-52.

設楽成美, 神谷俊郎, セミナー報告「紀要編集者ネットワーク キックオフセミナー『紀要』の可能性」, *カレントアウェアネス-E*, 査読無, 326, 2017, (印刷中).

矢野正隆, 専門図書館におけるマイクロフィルムの現状, *専門図書館*, 査読無, 272, 2015, 39-42.

矢野正隆, ベトナムの神勅: 九州国立博物館所蔵資料の概要と基礎データ, *東京大学経済学部資料室年報*, 査読無, 6, 2016, 38-60.

矢野正隆, メディアの保存に関する試論: デジタル・メディアを手掛かりとして, *情報の科学と技術*, 査読有, 66(4), 2016, 160-165.

[学会発表](計16件)

北村由美, 図書館からみた初期東南アジア研究の興隆—コーネル大学エコルスコレクションを中心に—, 東南アジア学会第93回研究大会, 2015年05月30日, 愛媛大学.

Kitamura, Yumi. Three Steps to Increase Accessibility to Your Articles. *AAS in Asia*. 2016.

Kitamura, Yumi. Inclusive Planning Process for Space and Services at Kyoto University Library. *Eighth Shanghai International Library Forum*. 2016.

Kitamura, Yumi. Analysis of Citation and Library Collection on Southeast Asian Studies in the United States and Japan (*Reflecting the Development of Southeast Asian Studies through the Analysis of Library Collection and Journal Assessment in Japan and the United States*). *Association for Asian Studies Annual Conference*. 2018.

Kameda, Akihiro, Shoichiro Hara.

Constructing Linked Knowledge around Southeast Asian Studies. *Digital Humanities 2017*. 2017.
Kameda, Akihiro. Corpus Construction and Analysis of Tonanajia Kenkyu. *Association for Asian Studies Annual Conference 2018*. 2018.
佐藤翔、学術雑誌コレクションを評価する「科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」の評価から、神奈川県資料室研究会 7 月例会、2016 年。
HARADA, Takashi and NAKAJIMA, Sachiko and SATO, Sho and YANO, Marimi. The improvement of an e-learning system for library classification based on the analysis of incorrect answers given by students. *IFLA WLIC 2016*. 2016.
佐藤翔、国立国会図書館サーチのアクセスログに基づくアクセスポイント利用状況の検討、TP&D フォーラム 2016(第 26 回整理技術・情報管理等研究集会) 2016 年。
Sato, Sho, Yukari Eto, Kotomi Iwaki, Tadashi Oyanagi, Yu Yasuma. Gaze behavior of public library users: Evidence from an eye-tracking experiment. *9th International Conference on Qualitative and Quantitative Methods in Libraries (QQML 2017)*. 2017.
Shibayama, Mamoru. Keynote: Medieval East-West Cultural Corridor in Mainland Southeast Asia. *International Workshop on Application of Science and Technology for Cultural Studies*(招待講演). 2015.
Shibayama, Mamoru. Creating Archaeo-Ontology based on the Inventory of Monuments. *International Workshop on Application of Science and Technology for Cultural Studies* (招待講演). Thailand.
Shitara, Narumi. Some suggestions in preparing a paper to be accepted (round-table session) . *AAS in Asia*. June 26, 2016. Doshisha University.
Shitara, Narumi. Some Hints in Preparing a Journal Paper. *AAS-in-Asia 2017*. 2017.
Shitara, Narumi. To Communicate with a Wide Readership. *SEASIA 2017*. 2017.
Yano, Masataka. A Preliminary Analysis of Rethinking Southeast Asia Collection Development. Association for Asian Studies Annual Conference

2018. 2018.

〔図書〕(計 1 件)
北村由美(執筆分担)、明石書店、「経験型図書館の可能性」『ヒューマンライブラリー：多様性をはぐくむ「人を貸し出す図書館」の実践と研究』、2018、360。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://project-archives.org/2015houga/>

6. 研究組織

(1)研究代表者
北村 由美 (KITAMURA, Yumi)
京都大学・附属図書館研究開発室・准教授
研究者番号：70335214

(2)研究分担者
佐藤 翔 (SATO, Sho)
同志社大学・同志社大学免許資格課程センター・准教授
研究者番号：90707168

設楽 成実 (SHITARA, Narumi)
京都大学、東南アジア地域研究研究所、助教
研究者番号：00727943

亀田 堯宙 (KAMEDA, Akihiro)
京都大学、東南アジア地域研究研究所、助教
研究者番号：10751993

矢野 正隆 (YANO, Masataka)
東京大学、大学院経済学研究科、助教
研究者番号：80447375

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

大西 賢人 (ONISHI, Masato)

京都大学附属図書館学術支援課・電子リソ
ース掛・主任